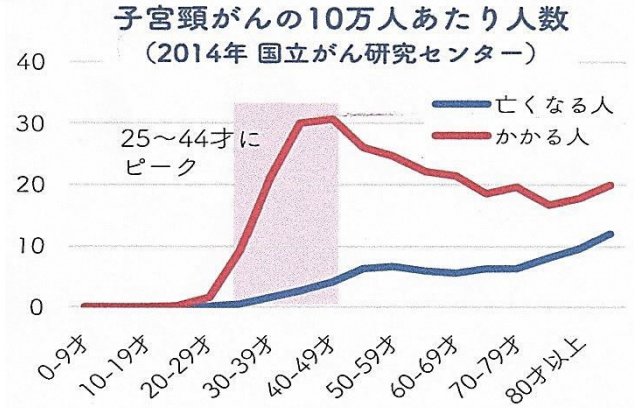


あなたの将来を守るために...

大切なワクチンがあります!!

若い女性に子宮頸がんが増えています

- *毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3000人が命を失っています。
- *特に、妊娠・出産を迎え、さらに子育て世代、働き盛りの女性20~40歳代でかかる人が増えています。



子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス (HPV) の感染です

性交渉により8割の女性が HPV に感染します。自然に排除されることも多いのですが、生涯で全女性の約73人に1人が子宮頸がんにかかります。

子宮頸がん
予防

子宮頸がん予防ワクチン
HPV ワクチン接種



子宮頸がん
検診

ワクチンのメリット (子宮頸がんの予防効果)

- *HPV ワクチンで子宮頸がんの6~7割が予防可能です。
- *HPV ワクチンを12~13歳で接種している世界各国では前がん病変がすでに劇的に減少し、同時に30歳以下の子宮頸がん (浸潤がん) も激減してきており、今後は子宮頸がんにかかる女性が着実に減少することが推測されます。
- *最近日本でも、非接種者より接種者の方が子宮頸がん検診での異常が52~88%減少したと報告されています。(宮城県・秋田県)



ワクチンのデメリット (接種後に起こる症状)

- *HPV ワクチンの副反応として接種直後のふらつき・注射部位の痛み、腫れ、発熱等がみられることがあります。
 - *接種からの期間を問わず副反応が否定できない症状 (有害事象) のひとつとして、頻度は稀ですが、広範な痛みや様々な身体症状 (機能性身体症状) が報告されています。
- 接種しなくても同様の症状を訴える人が同じくらい存在するとの報告があり、ワクチンとの因果関係は示されていません。

(名古屋スタディ)

ワクチンをよく知って接種しましょう

- ◎HPV ワクチンは、定期予防接種として小6~高1の女性は無料で接種できます。(各自治体窓口、もしくはお近くの産婦人科・小児科へお問い合わせください)
- ◎接種の意義については、保護者だけでなくご本人にも理解いただくことが大切です。かかりつけ医とよくご相談の上、接種されることをお勧めします。
- ◎ワクチン接種後に何らかの困った症状があり、心配される場合は、和歌山県では、厚生労働省の指定する協力医療機関の窓口を和歌山県立医科大学附属病院と日赤和歌山医療センターが担っていますので、どちらかの病院で相談を受けることができます。
- ◎HPV ワクチンに関する情報は右側の QR コードでもご覧いただけます。



厚生労働省 HP



日本産科婦人科学会 HP